橋市創業百五十年の歩み

橋市
HASHI-ICHI

昭和四十三年来
今日一日のスタート
朝礼に唱和して
仕事に取組む

社是

朝の誓

今日一日 三つの恩を忘れず、
喜んで進んではたらきます。
今日一日 人の悪をいわず、
己の善を語りません。
今日一日 気付いたことは、
身がるに直ぐ行います。
今日一日 腹を立てず、
不足の思いをいたしません。
今日一日 三つの無駄を排し、
新しく大地に生き貫きます。

三つの恩＝親・師・社会
三つの無駄＝物・時・心

現在橋市本社　昭和58年４月　841ビルオープン

報恩感謝の心で

㈱橋市
会長　谷　藤　文　明

元号が平成から令和に改まったこの年に、明治２年に屋号「橋市」として創業以来150年を迎えました。

これも偏に、関係各位のご指導ご鞭撻の賜物と心から感謝と御礼を申し上げます。

昭和から平成に改元した年に、４代目社長として任に当たり30年、時代の流れもＩＴ化の時代へと変わり、これからの時代の経済活動に携わるリーダーもその時代を先取りし、的確な判断、決断力を持って迅速に対応できる人材が求められるようになってまいりました。

この機にあたり、５代目社長として、令和元年５月１日より谷藤大樹（長男）が「橋市」の社業を継承することになりました。

今この大節にあたり、150年の間、代々脈々と受け継がれ守ってきた、「どんなに時代が変わろうとも、変えてはならない大切なもの」を、社業発展、継続の為に受け継いで行ってほしいと思っております。

一つは、勤勉
二つは、社会に奉仕する
三つは、家族、兄弟、社員仲良く喜んではたらくこと

今日まで、「橋市」が存続できたことは、社会の多くの企業、地域、人々の支援があればこそと、感謝であります。

多くの方々から信頼を寄せられ支えられて今があります。

このご恩を決して忘れることなく、常に報恩感謝の気持ちを持って任に当たってもらいたいと思っております。

４代目社長を、30年に亘り、支え支援していただきました皆様に御礼申し上げますと共に、５代目社長も変わらずご支援いただきますことをお願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

新元号と共に

㈱橋市
社長　谷　藤　大　樹

平成から令和へ、新しい元号となったこの年、橋市は創業150周年を迎えることができました。

これも偏に、皆様のご支援、ご愛顧の賜物と心より感謝を申し上げます。

また、令和元年５月１日、新元号と共に父である４代目 谷藤文明より、橋市５代目社長を継承致しました。

改めて150年という年月を考えてみますと、そこには多くのお客様、お取引様に支えられて歩んできた道のりであり、歴代の経営者と共にたくさんの社員が一日一日を積み重ねてきた月日であることを強く感じております。

明治・大正・昭和・平成・令和と歩んできた道は、様々な歴史とその時代の変化と共にありました。これから先はさらに加速度的に変化し、予測が難しい社会となっていきます。そして、AI（人工知能）やITなど、様々な技術革新は私たちの仕事や生活の中ではすでに欠かせないものとなっております。このような時代だからこそ、「橋市」がこれからも「橋市」として変わらず地域の皆様に必要としていただける会社であり続けるために、変化を恐れず挑戦し、学び、そして成長して参ります。

代々受け継がれてきた、「勤勉」・「社会奉仕」・「家族・兄弟・社員仲良く喜んではたらくこと」の教えを実践し、父から受け継いだバトンを次なる世代へ更なる社業・地域発展と共に継承できますよう精進して参ります。

これからも４代目社長と変わらず、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

初代 谷藤 市太郎 創業時代

初代　谷藤市太郎

橋市は明治２年に初代谷藤市太郎が創業した。

初代市太郎は弘化３年（1846年）に盛岡に生まれ、23歳の明治２年、旧夕顔瀬橋際に店舗を建設した。店舗は間口、奥行きとも相当の規模で、創業から大商家の店構えだが、これを建てるまでにどこに住み、どのような商売をしていたかは伝わっていない。

店の名称は夕顔瀬橋際で商売（市）をしていたことと、名前の市太郎を合わせて橋市にしたという。

創業当時の店では、こうじ、塩、豆腐などの品物を扱い顧客を増やしていった。塩は野田村や種市町の方で買い付け、牛の背に乗せて運ばれていたが、何頭もの牛で行列ができたほど取扱量は多かったという。

15年には水車を利用した精米、製材も始めるようになった。水車の精米所は、館坂と現在の旭橋付近に置かれていた。

製材業は県内で初の事業だったが、軌道に乗った20年には東京から製材の仕事を頼まれるほどになった。同年からは土木建築請負業も始め、盛岡高等農林学校の校舎建築（35年）や大迫煙草専売局の建設、横黒沢橋の建設など、さまざまな仕事を受けた。

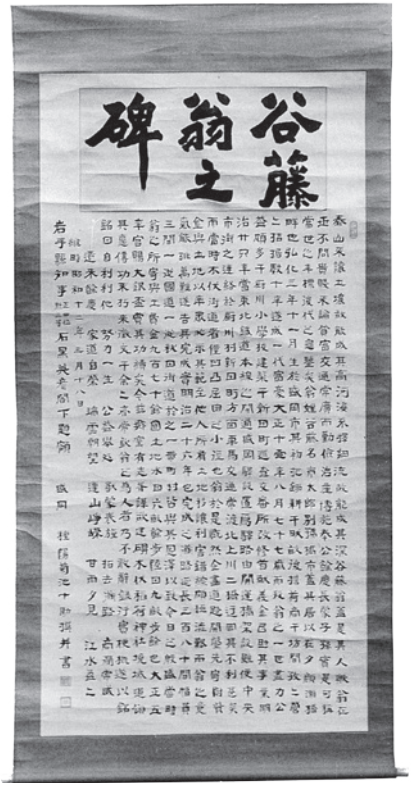
貸家の建設も手がけ、山林からの木材の切り出し、製材加工、建築という一括した仕事を考え出した。

事業の拡大に合わせて店の収益も伸び、田畑や山林のほか駅前通りの土地を次々と買い取っていった。盛岡駅の開業時には、駅周辺の土地はほとんど同店が所有するようになった。

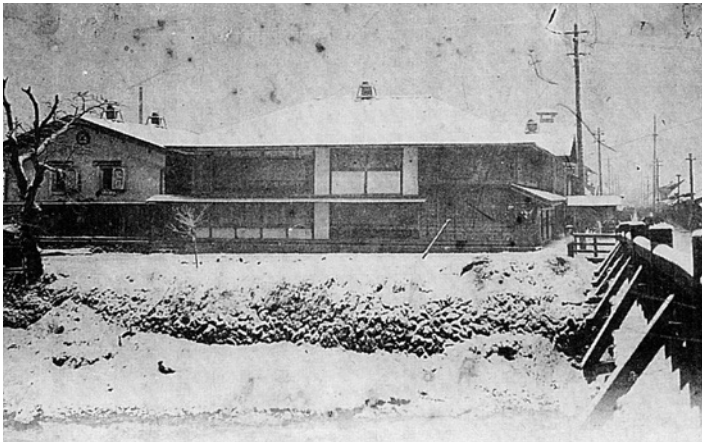
先を読み取る優れた商売の勘で次々と事業の拡大、多角化を進めて膨大な資産を築いた初代だが、地域振興にも貢献。24年には開運橋（23年架設）と夕顔瀬橋の間にある木伏街道に私費を投じて拡幅・区画整理、道路を整備して県に寄付した。

社会福祉事業でも大きく貢献。その働きぶりは勤勉のかがみとして、当時の教科書（盛岡教育副読本の政治、経済、教育部門）で紹介された。橋市の基礎を築き上げ、大正11年に76歳で亡くなった。

盛岡タイムス（平成６年２月20日）より

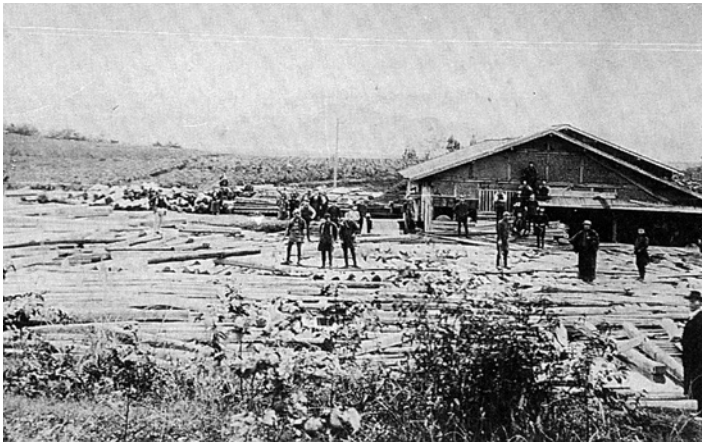


初代谷藤市太郎顕彰の碑有志により建立。開運橋－夕顔瀬国道４号線に通ずる木伏道路開通記念碑（明治23年盛岡駅建立）
木伏稲荷神社境内に奉る。
題字　石黒知事の筆による。



明治２年
橋市店舗建設
創業当時の土るいのままである。
土蔵は米・みそ・しょうゆ醸造のもの。

創業当時の店舗



岩手県初の水車による製材所
明治15年
現在の館坂橋市米穀店付近

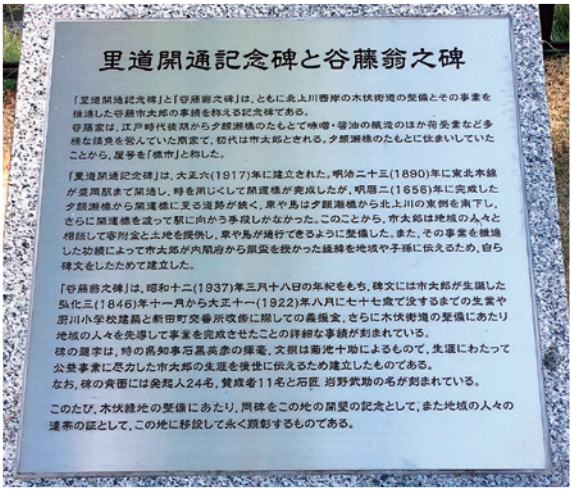
厨川蛇の島　南部藩三大やな場　現在も橋市所有地である。盛岡市第一号自然環境保護指定になる。

蛇の島内の住人と

明治初期の夕顔瀬橋

大正末期から昭和30年頃の旧木伏通り

盛岡高等農林学校本館　市太郎が建設にあたる



里道開通記念碑と谷藤翁之碑

「里道開通記念碑」と「谷藤翁之碑」は，ともに北上川西岸の木伏街道の整備とその事業を推進した谷藤市太郎の事績を称える記念碑である。
谷藤家は，江戸時代後期から夕顔瀬橋のたもとで味噌・醤油の販売のほか荷受業など多様な商業を営んでいた商家で，初代は市太郎とされる。夕顔瀬橋のたもとに住まいしていたことから，屋号を「橋市」と称した。

「里道開通記念碑」は，大正六(1917)年に建立された。明治二十三(1890)年に東北本線が盛岡駅まで開通し，時を同じくして開運橋が完成したが，明暦二(1656)年に完成した夕顔瀬橋から開運橋に至る道路が続く，東や馬は夕顔瀬橋から北上川の東側を南下し，さらに開運橋を渡って駅に向かう手段しかなかった。このことから，市太郎は地域の人々と相談して谷附金と土地を提供し，車や馬が通行できるように整備した。また，その事業を推進した功績によって市太郎が内閣府から銀盃を授かった経緯を地域や子孫に伝えるため，自ら碑文をしたためて建立した。

「谷藤翁之碑」は，昭和十二(1937)年三月十八日の年紀をもち，碑文には市太郎が生誕した弘化三(1846)年十一月から大正十一(1922)年八月に七十七歳で没するまでの生業や厨川小学校建築と新田町交番所改修に際しての義援金，さらに木伏街道の整備にあたり地域の人々を先導して事業を完成させたことの詳細な事績が刻まれている。
碑の題字は，時の県知事石黒英彦の揮毫，文撰は節池十助によるもので，生涯にわたって公益事業に尽力した市太郎の生涯を後世に伝えるため建立したものである。
なお，碑の背面には発起人24名，賛成者11名と石匠 岩野貫助の名が刻まれている。

このたび，木伏緑地の整備にあたり，同碑をこの地の開墾の記念として，また地域の人々の遺業の証として，この地に移設して永く顕彰するものである。

木伏緑地公園内の木伏街道開通記念碑

二代 谷藤 市助 創業時代

昭和９年３月28日、内務大臣官邸　山本大日本消防協会長閣下より表彰旗拝援

二代　谷藤市助

橋市二代目の谷藤市助（明治24年生まれ）は大正11年に店を継ぐと、米や雑穀の取り扱いのほかに、みそ、しょうゆの醸造を新たに始め、病院や大商家など、大口を中心に販売していた。貸家についても自ら設計建築するなどの手腕を見せた。

このころは製材業を辞めていたが、昭和13年に所有する山林の間伐材を活用して公衆浴場（現観音湯）の経営、浴場の建設指導をするようになった。

市助は社会事業にも力を入れ、昭和２年６月には水害や火災が多い木伏を守るため川守稲荷神社を建立。盛岡消防組頭として学校、保護員、養老院への奉仕などを行った。

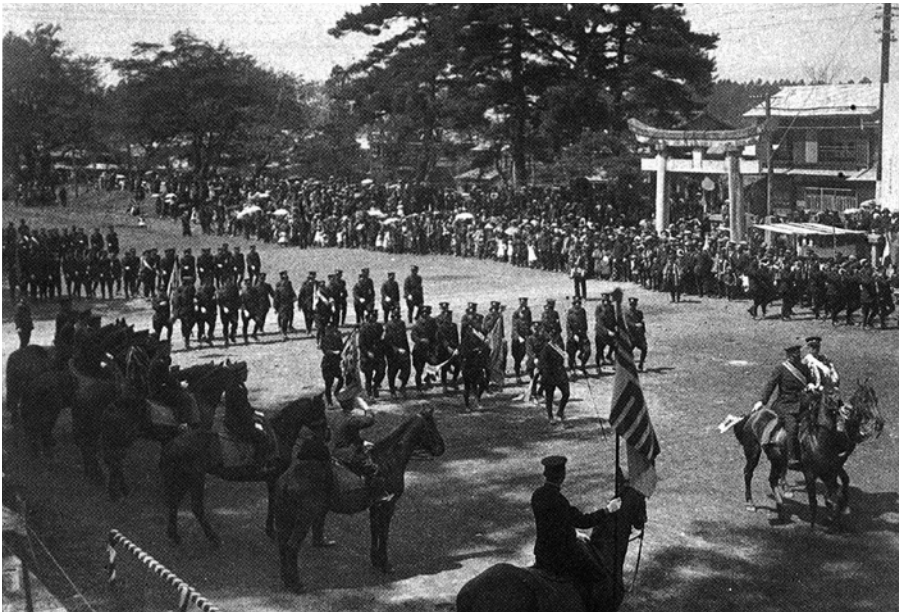
武道についても、15年に川守稲荷境内に厨川尚武館を建設。南部藩古武道の諸賞流・無辺流を伝承する道場とした。尚武館は橋市道場に引き継がれ、54年には盛岡市無形文化財の第一号に指定された。

第二次世界大戦が始まると食糧統制に入り、米、雑穀、みそ、しょうゆを取り扱っていた同店も食糧公団に統合。みそ、しょうゆの醸造は閉鎖され、北部集配所となった。

統制は26年まで続き、食糧公団が解散されたが、農地改革で所有していた田畑を手放し、小作米が入らなくなったことから米、雑穀の販売は再開しなかった。二代目市助（37年没）は経営を三代目の新吉に任せて隠居。32年に功績が認められ、盛岡市勢振興功労者の表彰を受けた。

盛岡タイムス（平成６年２月20日）より

岩手国体開催の年昭和44年まで橋市店舗として営業する



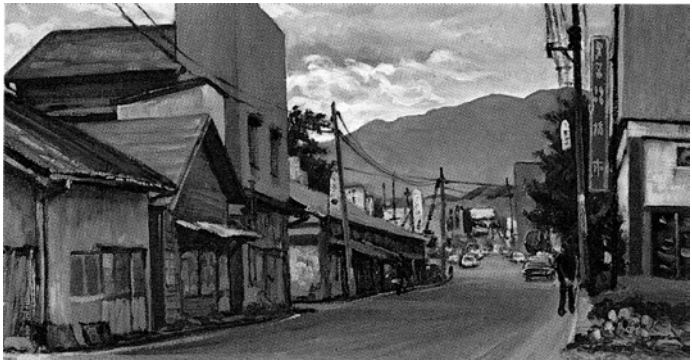
二代橋市谷藤市助、盛岡消防組頭、警防団々長当時　先頭馬上の勇姿（八幡宮境内）

戦前・自宅の庭にて

昭和36年大晦日家族と共に

川守稲荷神社・荒神神社
昭和２年６月に水害、火災の多い木伏に
川守稲荷神社を建立し奉る。

厨川尚武館



昭和44年　本社駅前北通り当時

三代 谷藤 新吉 創業時代

特別攻撃隊当時

三代　谷藤新吉

大正11年５月11日盛岡市に生まれる。

盛岡中学校（現盛岡一高）、盛岡高工専（現岩手大学）。

志願兵として陸軍航空隊、特攻隊。

昭和26年の再開後、食料品の販売を辞めた橋市。店には幾つも建てられていた米蔵やみそ蔵を使わなくなったことから、三代目を継いだ新吉は使える蔵を倉庫として活用するほか、新しい商売をと、地域でも競合相手がなく迷惑がかからないわら工品の販売を始めた。

店では近在の農家でつくる縄やむしろ、かますなどを買っていた。終戦間もないころは、毎年のように洪水が起きていたことから、土のうなどを倉庫にためておき、要請があったときすぐ出せるようにしていたという。

28年からは包装資材業に転換。有限会社橋市商店を創設した。わら工品の販売のほか、魚や納豆などを包む経木の製造販売をするようになった。三代目の実家は製材業をしていたことから、そこの裏に経木の工場を建て、木材の提供を受けて製造していた。

倉庫業では32年に一号倉庫、36年に二号倉庫と、好景気に乗り次々に建設。40年には橋市倉庫を設立し、倉庫業と不動産の管理、包装資材は橋市商店が担当と分離させた。

創業から続いていた店舗は、建築100年目の44年に国道拡幅に伴って解体。本店も盛岡駅前北通に移転し、社名も橋市に変更した。旧店舗は橋市道場２階広間として使われている。

50年には盛岡中央卸売市場に支店、配送センターを開設した。翌年には青森県の八戸市に支店を開設した。54年には盛岡駅前の区画整理に伴い、本店を橋市ビル一号館に移転。58年に橋市（841）ビルが完成し、ビル１、２階に本社事務所、店舗を移転した。

平成元年に水沢店を開設。関連会社には橋市物産、盛岡リフレッシュスポーツなどがある。武道具は、東京に注文しないと手に入らなかったことから、専門店として開設した。

包装資材や業務用調理機器のほかマンション、貸しビル経営、飲食店、シイタケの栽培など、県内外で広く営業を展開している。特に調理機器では業績を伸ばしている。

盛岡タイムス（平成６年２月20日）より

城西中学校初代PTA会長を務める

青少年の健全育成にと、昭和42年より社団法人実践倫理宏正会盛岡支部長として毎朝５時からの朝起会を実践継続している。

社員研修

昭和58年４月　841ビルオープン

剣道の理念

剣道は剣の理法の修練による
人間形成の道である。

初代岩手県PTA連合会長、その後盛岡市教育委員長を12年つとめる。
海外視察（ロンドン）

ドイツの青年ペータクラウゼ君に
居合を指導

道場前にて

昭和62年５月８日　剣道教士八段となる。

岩手県、盛岡市ＰＴＡ連合会長
盛岡市教育委員長12年
岩手県スポーツ少年団本部長10年
剣道範士　八段
　国体　10回出場
　全日本東西対抗　４回出場
　全日本剣道大会　２回出場
　東北、北海道大会　９回出場

妻・貞子15才当時

選手として

道場での指導

四代 谷藤 文明

早稲田大学

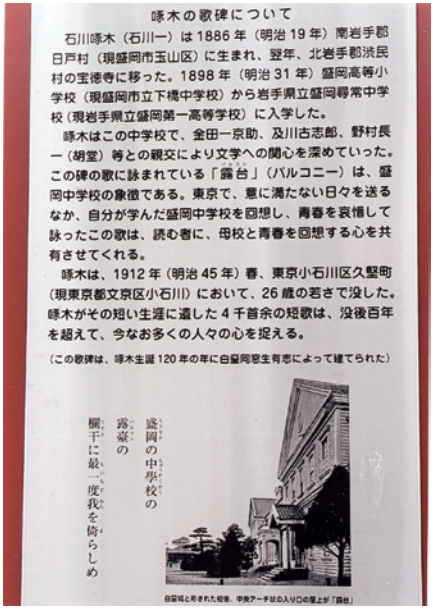
剣道早慶戦
優秀選手となる

盛岡一高時代　高総体で優勝

四代　谷藤文明

昭和23年11月3日盛岡に生まれる。
盛岡第一高等学校、早稲田大学文学部卒業。
株式会社橋市　昭和49年入社。
有限会社橋市倉庫役員として、包装資材販売、不動産開発、スポーツクラブ、しいたけ農園、物産等の販売を行う。
会社経営と共に、橋市道場館長、岩手県スポーツ少年団本部長（14年）日独交流使節として２回団長を務める。

厨川小学校ＰＴＡ会長、城西中学校同窓会長、消防９分団後援会長、岩手県剣道連盟副会長、盛岡剣道協会会長、早稲田大学剣道部稲門会副会長
剣道教士　七段



啄木の歌碑について

石川啄木（石川一）は1886年（明治19年）南岩手郡日戸村（現盛岡市玉山区）に生まれ、翌年、北岩手郡渋民村の宝徳寺に移った。1898年（明治31年）盛岡高等小学校（現盛岡市立下橋中学校）から岩手県立盛岡尋常中学校（現岩手県立盛岡第一高等学校）に入学した。

啄木はこの中学校で、金田一京助、及川古志郎、野村長一（胡堂）等との親交により文学への関心を深めていった。この碑の歌に詠まれている「露台」（バルコニー）は、盛岡中学校の象徴である。東京で、意に満たない日々を送るなか、自分が学んだ盛岡中学校を回想し、青春を哀惜して詠ったこの歌は、読心者に、母校と青春を回想する心を共有させてくれる。

啄木は、1912年（明治45年）春、東京小石川区久堅町（現東京都文京区小石川）において、26歳の若さで没した。啄木がその短い生涯に遺した4千首余の短歌は、没後百年を超えて、今なお多くの人々の心を捉える。

（この歌碑は、啄木生誕120年の年に白堊同窓生有志によって建てられた）

盛岡の中学校の
露台の
欄干に最一度我を倚らしめ

白堊城と称された校舎、中央アーチ状の入り口の屋上が「露台」

盛岡一高校内に啄木歌碑を寄贈

盛岡一高昭和43年卒業生と記念碑除幕式にて

橋市・東京生命ビル
不動産としてのビル建設を開始する

841ビル

母 貞子を囲んで

岩手山焼走り

浅草観世音裸参り（30才）

スポーツ少年団日独交流団長としてベルリン東西境界に立つ

ベルリンの壁

五代 谷藤 大樹

青山学院大学

五代　谷藤大樹

昭和55年８月７日盛岡に生まれる。
岩手高等学校、青山学院大学経済学部卒業
平成18年　株式会社北日本銀行入社
　北上支店・仙台支店・本店営業部に配属
平成26年　株式会社橋市入社
平成29年　同常務取締役就任
令和元年５月　橋市グループ　代表取締役社長就任

大学卒業後、地元金融機関での８年間の勤務を経て、株式会社橋市へ入社。
事業と共に、剣道協会、地元振興会、各団体青年会活動を行う。

盛岡市剣道協会理事、盛岡駅前東口振興会副会長、盛岡駅前盛年会青年部長、盛岡市消防団第９分団員
川守稲荷神社奉賛会副会長
新明館橋市道場副館長　剣道六段

剣道部時代

2019 盛岡青年会議所次世代育成員会委員長

銀行員時代

浅草観世音裸参り

オレゴン州ポートランドホームステイ先にて

ホームステイ先のYUKI（盛岡にて）

オレゴン州ポートランド ボランティア

JCわんぱく相撲盛岡場所

JCカップ 盛岡フェスティバル

JCわんぱく相撲全国大会

もりおかまちラン（橋市道場）

2019 いわて盛岡シティマラソン

もりおかまちラン（高松ノ池）

盛岡さんさ踊り

盛岡市消防団第9分団

朝起きジュニア遠足（岩山動物公園）

盛岡八幡宮祭典 か組

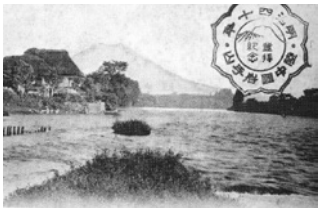
朝起きジュニアカブト虫取り（一本木）

橋市創業150年の歩み

太字…橋市関係　　細字…社会

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
弘化３年（1846）	
11月３日	・初代　谷藤市太郎誕生
嘉永５年（1852）	・吉田松陰（荻藩）盛岡に
安政３年（1856）	・原敬、盛岡本宮に生まれる
慶応２年（1866）	・盛岡藩、明義館を拡大、作人館と改名
慶応３年（1867）	
10月	・徳川慶喜大政奉還し王政復古
明治元年（1868）	
９月８日	・明治と改元
９月25日	・奥州戦争、盛岡藩降伏
10月10日	・官軍盛岡城に入る
明治２年（1869）	・橋市初代店舗建設、現在の盛岡市夕顔瀬橋際に落成、屋号を橋市と定める
	・麹、塩、豆腐商い、遂次事業拡大、当時塩を牛の背に行列をなしたという
	・米、雑穀の取扱となる。味噌、醤油の醸造へと拡張する
	・東京に遷都
明治４年（1871）	・廃藩置県
明治５年（1872）	・盛岡県を岩手県と改名
	・仁王小学校開設
明治６年（1873）	・厨川小学校開設
明治10年（1877）	・西南戦争勃発
明治15年（1882）	・水車による精米、製材を始める、盛岡の原始といわれる
	・水車は、館坂の外、今の旭橋付近にも水車精米所があった
明治20年（1887）	・製材は更に東京よりの請負あり、土木建築請負業をも開始する
	・その業績の中には、明治35年盛岡高等農林開校の歴史の中に校舎建築にも貢献したとある
	・大迫煙草専売局、集配部の建設
	・土建中、横黒沢橋の築橋し、その名が刻まれている
明治22年（1889）	・憲法発布
明治23年（1890）	・盛岡駅前、開運橋、私橋として架設さると盛岡史の中にある
11月１日	・東北鉄道　上野－盛岡駅開通
明治24年（1891）	
９月１日	・開運橋、夕顔瀬間の道路を開く
	・開発顕彰の碑（旧 川守稲荷神社境内）盛岡駅開通碑と共に現存する

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
明治24年（1891）	・盛岡教育副読本に政治、経済、教育部門の中（勤勉の鏡として）原敬外県内名士の中にある
	・林業、貸家建設、福祉事業、学校建設（厨小等）への貢献
	・東北鉄道　盛岡－青森開通
明治27年（1894）	・日清戦争勃発
明治29年（1896）	・三陸大津波　死者22,565名 6,156流失
明治35年（1902）	・盛岡高等農林学校設立
	・原敬衆議院初当選
明治37年（1904）	・日露戦争勃発
明治45年（1912）	・明治天皇崩御
大正７年（1918）	・原敬内閣誕生
大正10年（1921）	・原敬東京駅にて刺殺される
大正11年（1922）	・谷藤市太郎　没
	・二代　谷藤市助（明治24年5月25日生）
	・米穀、味噌、醤油醸造に入る。その土蔵の一部現存する
	・初代の影響で、木伏、下台、堂の前等に、貸家を自ら設計建築する
昭和２年（1913）	・北上川洪水に木伏川守神社移設奉賛
昭和９年（1920）	・火の神、荒神神社を同地建設（紫波の山中より）
昭和13年（1924）	・自家山林の活用を計り、公衆浴場経営（観音湯） その他浴場第一、第二観音湯、高松の湯、北部観音湯等の建設指導
	・社会教育、奉仕 消防組、盛岡火けしの伝統を継ぎ、盛岡消防組頭、戦中警防団長として学校、保護院、養老院等への奉仕。全国消防表彰
昭和14年（1939）	・第二次世界大戦始まる
昭和15年（1940）	・紀元2600年記念事業として、有志と計り、南部藩伝来の諸賞流道場を木伏川守稲荷神社境内に建築し、厨川尚武館と命名する
	・米内光政内閣成立
	・夕顔瀬橋設工
昭和16年（1941）	・同店舗は、大東亜戦争中、食料統制に入り、食糧公団に統合。北部集配所となる。同時に味噌、醤油醸造をも閉鎖となる
	・太平洋戦争始まる
昭和18年（1943）	・二代谷藤市助、盛岡市議会議員（翼賛議員選挙）第１位当選
昭和20年（1945）	・太平洋戦争終戦、農産物大冷害不作
	・農地解放、食料統制
昭和25年（1950）	・朝鮮戦争勃発
昭和26年（1951）	・食糧公団解散　夕顔瀬旧店舗開放となるも米雑穀業も閉鎖
昭和28年（1953）	・三代　谷藤新吉（大正11年５月11日生） 同店舗にて㈲橋市商店を創設、包装資材業を始める
	・三代谷藤新吉、昭和25年～28年　盛岡青年連合会長を務める
	・吉田内閣バカヤロー解散



表彰状

谷藤市助殿

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
昭和31年（1956）	・第16回オリンピック　メルボルンで開催
昭和32年（1957）	・第一号倉庫建設（木伏）
11月３日	・谷藤市助、盛岡市勢振興功労者表彰受ける（盛岡市第３回）
昭和35年（1960）	・日米新安保条約調印
昭和36年（1961）	・第二号倉庫建設（木伏）
昭和39年（1964）	・カラーテレビ放送開始
	・第18回オリンピック東京大会開催
昭和40年（1965）	・有限会社橋市倉庫を創業　不動産管理部門設く
	・岩手県庁舎新築落成
	・新明館橋市道場建築（岩手県初の剣道個人道場）（朝稽古、年中無休、朝６時より）
昭和42年（1967）	・三代谷藤新吉、県・市PTA連合会長
昭和43年（1968）	・盛岡市中央卸売市場に支店開設
昭和44年（1969）	・国道拡巾のため店舗開設100年目、創業の店舗解体（橋市道場の二階の広間として現存する。）
昭和44年（1969）	・社名を㈲橋市と改名、本店を盛岡駅前北通に新築移転
本社移転　６月	・盛岡バイパス開通
（第２回）	・アポロ11号、人類初の月着陸に成功
昭和45年（1970）	・岩手国体開催
	・万国博覧会（大阪にて）
昭和46年（1971）	・沖縄返還協定調印式
昭和47年（1972）	・盛岡市教育委員長12年間務める
～	
昭和56年まで	・同岩手県市町村教育委員会協議会長
昭和48年（1973）	・文部大臣表彰（PTA活動）
	・オイルショック起こる
昭和50年（1975）	・都南村、盛岡中央卸売市場支店、配送センターを開設
	・新幹線、博多まで開業
昭和51年（1976）	・八戸市小中野に八戸支店開設
	・周恩来死去
	・ロッキード事件起こる
昭和54年（1979）	・盛岡駅前区画整理により、本店を盛岡駅前北通橋市ビル１号館に移転
本社移転	
（第３回）	
昭和55年（1980）	・鈴木内閣誕生
昭和56年（1981）	・盛岡駅前旭橋開通、東北縦貫道
昭和57年（1982）	・東北新幹線　大宮－盛岡間開通
昭和58年（1983）	・橋市（841）ビル完成
本店移転　４月	・本社、店舗及び事務所、同ビル１Ｆ、２Ｆに移転
（第４回）	店舗（１Ｆ 500㎡、２Ｆ 350㎡）

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
昭和58年（1983）	・三代谷藤新吉、盛岡リフレッシュスポーツ㈱代表取締役となる
昭和59年（1984）	・新日鉄釜石ラグビーが６年連続日本一
	・第三セクター方式の三陸鉄道開業
昭和60年（1985）	・環境庁の「名水百選」に岩泉龍泉洞地底湖のわき水も
	・カナダのビクトリア市で同市と盛岡市が姉妹都市調印式
昭和61年（1986）	・東北新幹線　上野－大宮間開業
	・第12回先進国首脳会議（東京サミット）
11月	・谷藤文明剣道７段昇段
	・伊豆大島三原山噴火
昭和62年（1987）	・南極捕鯨の閉幕
5月	・谷藤新吉剣道８段昇段
	・盛岡先人記念館落成
	・利根川進㈱日本初のノーベル医学生理学賞受賞
昭和63年（1988）	・青函トンネル（5,385キロ世界最長）開通
	・瀬戸大橋開通
	・ソウルオリンピック
	・'93アルペンスキー世界選手権大会の開催地に「盛岡・雫石」決定
平成元年（1989）	
11月６日	・橋市水沢店オープン
	・昭和天皇崩御。１月８日から平成元年と改元
9月	・堂の前841マンション落成
	・消費税実施
	・東ドイツベルリンの壁が撤廃
平成２年（1990）	・湾岸戦争が勃発
4月18日	・橋市東京生命ビル落成
4月21日	・841クラフトオープン
5月18日	・串文オープン
	・雲仙普賢岳噴火
	・ソ連で８月政変　ソ連邦の消滅共産党も解体
平成３年（1991）	・新北上市誕生人口８万3,000人
4月７日	・谷藤裕明、岩手県議会議員選挙トップで初当選
	・ねんりんピック'91いわて大会　６万5,000人参加
	・台風19号
	・第15回日本古武道演武大会　県内三流派も披露
平成４年（1992）	・盛岡市、都南村合併
	・三陸海の博覧会開催
	・バルセロナオリンピック
	・米大統領選でクリントン氏圧勝
平成５年（1993）	・世界アルペンワールドスキー大会
	・皇太子ご成婚
	・第８回国民文化祭いわて'93

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
平成５年（1993）	
10月１日	・㈲橋市から㈱橋市に変更 四代社長に谷藤文明、会長に谷藤新吉が就任
平成６年（1994）	・日本人女性初の宇宙飛行士向井千秋氏宇宙へ
	・関西国際空港開港
平成７年（1995）	・阪神・淡路大震災
	・マイクロソフト社、ウィンドウズ95発売
	・谷藤裕明、岩手県議会議員選挙再選
平成８年（1996）	・東京三菱銀行発足
	・高田松原海岸、海と緑の健康地域（健康海岸）に指定
	・岩手朝日テレビ開局
平成９年（1997）	・消費税５％
	・サッカーＷ杯日本代表初出場を決める
	・岩手県立産業技術短期大学校開校
平成10年（1998）	・長野冬季オリンピック
	・郵便番号５ケタから７ケタへ
平成11年（1999）	・谷藤新吉没、剣道範士の称号を授与
	・国旗、国歌法制定
	・東京都知事に作家の石原慎太郎が当選
	・谷藤裕明、岩手県議会議員選挙３選
	・全国高等学校総合体育大会、岩手開催
平成12年（2000）	・シドニーオリンピック、女子マラソン高橋尚子が金メダル
	・コンピュータ2000年問題
	・盛岡都心循環バス「でんでんむし」本格運行開始
平成13年（2001）	・ニューヨーク多発テロ
	・新日鉄釜石ラグビー部廃部、「釜石シーウェイブスRFC」として再始動
	・谷藤裕明、岩手県議会議長に就任
平成14年（2002）	・ソルトレイク冬季オリンピック
	・サッカーワールドカップ日韓共催
	・東北新幹線　盛岡－八戸間開通
平成15年（2003）	・地上デジタル放送開始
	・谷藤裕明、盛岡市長選挙初出馬で初当選
平成16年（2004）	・新札流通（１万円：福沢諭吉、５千円：樋口一葉、千円：野口英世）
	・東北楽天ゴールデンイーグルス誕生
平成17年（2005）	・クールビズ推進始まる
	・愛知万博開催（入場者数2,205万人）
	・一関市と近隣の６市町村が合併。一関市となる
平成18年（2006）	・トリノオリンピック、女子フィギュアスケート荒川静香が金メダル
	・盛岡市に岩手郡玉山村が編入
	・盛岡城跡公園、日本の歴史公園100選に選ばれる

年　号（西暦）	時　代　の　動　向
平成19年（2007）	・盛岡商業高校第85回全国高等学校サッカー選手権大会優勝
	・郵政民営化
	・谷藤裕明、盛岡市長選挙再選
	・盛岡市を舞台にしたNHK連続テレビ小説「どんど晴れ」放送開始
平成20年（2008）	・北京オリンピック
	・リーマンブラザーズ経営破綻
	・バラク・オバマ氏第44代アメリカ合衆国大統領に当選
平成21年（2009）	・裁判員制度開始
平成22年（2010）	・バンクーバー冬季オリンピック
	・小惑星探査機「はやぶさ」帰還
平成23年（2011）	・東日本大震災
	・九州新幹線開通
	・なでしこジャパンワールドカップで優勝
	・谷藤裕明、盛岡市長選挙３選
平成24年（2012）	・東京スカイツリー開業
	・ロンドンオリンピック
平成25年（2013）	・富士山が世界遺産に登録
平成26年（2014）	・消費税５％から８％へ
平成27年（2015）	・マイナンバー制度制定
	・橋野高炉跡（釜石市）が世界遺産に登録
	・谷藤裕明、盛岡市長選挙４選
平成28年（2016）	・熊本地震
	・リオデジャネイロオリンピック
	・希望郷いわて国体・希望郷いわて大会開催
	・台風10号が岩手県に上陸
平成29年（2017）	**・ソーラー事業開始**
	・プレミアムフライデー実施
	・トランプ大統領が初来日
	・大谷翔平がロサンゼルス・エンゼルスと契約合意
平成30年（2018）	・平昌オリンピック、男子フィギュアスケート羽生結弦が２大会連続の金メダル
	・盛岡で東北絆まつり開催
令和元年（2019）	
５月１日	**・五代社長に谷藤大樹、会長に谷藤文明が就任**
	・市制施行130周年
	・元号が改定、平成から令和へ
	・東北横断自動車道釜石秋田線全線開通
	・ラグビーワールドカップ日本開催
	・谷藤裕明、盛岡市長選挙５選

橋市倉庫

年　号	㈲ 橋 市 倉 庫	関　連
昭和58年（1983）	841ビル完成	橋市本社ビル移転
		盛岡リフレッシュスポーツ㈱設立
63年（1988）	蛇島土地購入	
平成元年（1989）	北夕顔瀬マンション	橋市水沢支店オープン
２年（1990）	橋市・東京生命ビル	㈱橋市物産設立
		841クラフトオープン
		串文オープン
３年（1991）		谷藤裕明　県議会当選
５年（1993）	みたけＧ・Ｓ	谷藤文明　社長就任
７年（1995）	西根サンクス	橋市八戸支店オープン
８年（1996）	ホテルメトロポリタンニューウイング	
	都南土地購入	
10年（1998）	北夕マンション	
11年（1999）		谷藤新吉　死去
12年（2000）	一本木土地購入	
13年（2001）	カオリーモ青山	
	カオリーモ境田	
	カオリーモ都南	
	本宮土地購入	
	ハイツ井上購入	
14年（2002）	白滝土地購入	
15年（2003）		谷藤裕明　市長当選
16年（2004）	北上Ｊプラザ購入	
17年（2005）	スーパーホテル	
	洋服の青山 北上店	
	サンクス 西根店	
	エムエスケイ農業機械㈱	
19年（2007）	かっぱ寿司 北上店	谷藤裕明　市長再選
20年（2008）	ホテルルートイン 盛岡南インター店	
	洋服の青山 盛岡南店	
	タカヤ㈱盛岡ショウルーム	
	かっぱ寿司 水沢店	
21年（2009）	盛岡クリニックモール（５病院、１薬局）	
	武者クリニック	
	渡辺耳鼻咽喉科医院	
	くわた脳神経外科	
	畑山レディスクリニック	
	ノリ・デンタルクリニック	
	本宮センター薬局	
	セブンイレブン 夕顔瀬店	
23年（2011）	薬王堂 宮古店	谷藤裕明　市長３選

年　号	㈲ 橋 市 倉 庫	関　連
平成24年（2012）	はま寿司 花巻店	
	ダンロップ 矢巾店	
26年（2014）	ローソン 水沢店	
	アパート（水沢）	
	はま寿司 北上店	
	ジョリーパスタ 北上店	
27年（2015）	アパート　エスパル矢巾	谷藤裕明　市長４選
	ひな野 都南店	
28年（2016）	ツクイ	
	田中調剤薬局	
	Sorastars学習塾	
29年（2017）	セブンイレブン 黒石野	ソーラー事業開始
	国分通り歯科	
	薬王堂 一関店	
	ローソン 一関店	
30年（2018）	セブンイレブン 松園店	
令和元年（2019）	ツクイ松園　建設中	谷藤裕明　市長５選

841ビル

北夕顔瀬マンション

ホテルメトロポリタンニューウイング

橋市・東京生命ビル

北タマンション

カオリーモ青山

スーパーホテル

洋服の青山 北上店

エムエスケイ農業機械㈱

かっぱ寿司 水沢店

ホテルルートイン 盛岡南インター店

盛岡クリニックモール

はま寿司 花巻店

ダンロップ 矢巾店

タカヤ㈱盛岡ショウルーム

ひな野 都南店

ツクイ

Sorastars学習塾

セブンイレブン 黒石野

国分通り歯科

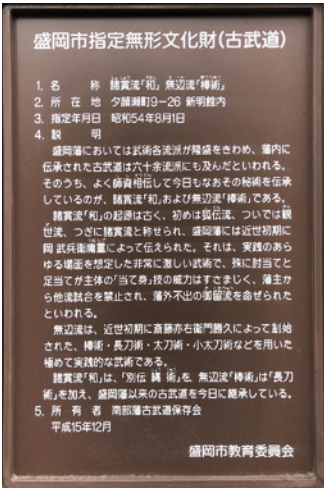
薬王堂 一関店

道場 ―日本古来の武道の伝承と青少年の育成

二代谷藤市助は、
　昭和15年木伏に厨川尚武館を地区有志と計り建築する。
　盛岡藩古武道諸賞流和、無辺流棒術、なぎなたは、坂上田村麻呂（田村利宗）を初代として1200年を越す古武道として現在69代に及び、その歴史の伝承は昭和54年盛岡市無形文化財第一号として東北初の武道認定を受ける。
　現在、橋市道場内にて継承されている。

厨川尚武館
昭和15年　谷藤市助（二代橋市）が中心となり、南部藩・諸賞流・無辺流の厨川尚武館を建設。古武道の伝承に寄与した。

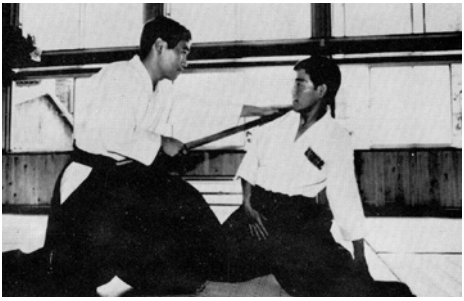
米内光政大将、及川古四郎（海軍大将）道場訪問落成を祝う（共に門下生）



1,200年の伝承を守る南部藩古武道を公に紹介し、昭和54年盛岡市無形文化財指定第１号をうける。

観音湯（銭湯）倉庫を改造して、県内初の剣道場を開設

道場開き立会い　当時安藤五郎先生（70才）、並岡教士（54才）



諸賞流和術

諸賞流裏の形

三代谷藤新吉は、
　昭和40年３月県下初の私設剣道場、橋市道場を開設する。
　昭和44年、岩手国体の為、道路拡巾に伴い総業120年の歴史を刻んだ橋市商家を解体し、新道場の２階の木組みとして再建する。
　更に新幹線開通による盛岡駅前の区画整理に伴い、昭和53年道場が曳家移転改築される。

昭和40年３月橋市道場開設　岩手県初の剣道個人道場

開設当時の橋市道場

現在の橋市道場

岩手国体の年に旧橋市店舗を解体し、道場２階に移設

第３次道場移設拡張工事（新幹線開通のため）曳家工事

道場移設風景

道場開き

道場内の蔵

橋市道場を舞台にするスポーツ根性マンガ「六三四の剣」が「少年サンデー」に連載される

六三四誕生の巻
杜の都、仙台市、鹿島台！
パシッ
パシッ
パシッ

四代谷藤文明は

平成22年橋市道場45周年にあたり、旧講談社野間道場床板移設。

旧講談社野間道場は講談社野間清治初代社長が大正14年に東京都文京区音羽に剣道場を開設し剣士の「聖地」と呼ばれるほどの歴史と伝統のある道場である。

ご縁があり、旧野間道場の床板（7メートル）110枚を移設する。

当時の野間道場の造りを出来る限り忠実に復元している。

仕上げ確認をする谷藤館長

旧野間道場　上段の間

移設された床板

移設竣工の橋市道場

岩手日報　2010年（平成22年）5月5日（水曜日）

床板 橋市道場 盛岡に

盛岡市夕顔瀬町の剣道場・新明館橋市道場（谷藤文明館長）に、講談社野間道場の床板が移築される。2007年に惜しまれつつ解体された野間道場は、全国の剣士があこがれる床板は、鍛錬の道場でよみがえるそうだ。移築工事は6日着工、1週間程度で完成の予定。

剣士の「聖地」野間道場（東京）

講談社野間道場は講談社の野間清治初代社長が創設、1935（大正14）年東京都文京区音羽に開館した、日本最大級の私設道場で、床板を組む多くの剣道家がけいこした。

（25年公開の映画「武士の一分」に主演した木村拓哉さんも役作りのため訪れている。

しかし老朽化のため解体。床板は文京区の日本伝統技術保存会（椎名和衛会長）が一時引き取った。歴史ある道場を残そうと働きかけていた椎名会長は、移築にふさわしい場所を探していた。

仕事で盛岡を訪れた椎名会長は、剣道場面（六三四の剣）のモデルとなった橋市道場を目にして感動。将来補修する際には力になりたいと考えていた。

床板移築の話が持ち上がったのは昨年11月ごろ。知人を通じて野間道場の床板の所在を知った谷藤館長は、野間道場の師範を務めた故・鹿島敷雄さんに話事した縁もある。補修計画を持っていたことから移築先に名乗りをあげた。

床板は長さ4間（約7・2メートル）、幅約1メートル、厚さ約4センチの杉の一枚板で、合計100枚。傷んだ表面は削り、着色と防腐剤に相当を塗って使う。橋市道場は野間道場より広いため中央部に敷き、くさび固定させる敷き詰めて並べる工法で以前の状態を復元する。

「まだ実感がわかないが光栄なこと」と喜ぶのは小学6年生から橋市道場に通う立山昌宏さん（49）。「剣道用でとても有名な道場の板が来るのはありがたい。ここで剣道をやっていてよかった」と期待に胸を躍らせる。

谷藤館長は「剣士の汗がしみこんだ床板は野間道場の歴史と精神の象徴。今回の移築により形だけでなく心もよみがえらせ、かつての空気を感じに来てほしい」と思いをはせる。

あすから移築工事

「鍛錬の大きな励み」

竹刀の音が響く橋市道場。今月中旬には野間道場の床板が移築される

野間道場での床板解体作業＝2007年（雑誌「剣道日本」提供）

岩手日報（平成22年５月５日）より

旧野間材捕捉材搬入状況

検品全数敷並べ表面・品質検査

仮敷き後、張込み順確認、傷・節確認
谷藤館長、椎名氏立会い

谷藤館長立会いのもと新床板設置

元朝稽古

年末恒例のもちつき大会

北奥羽少年剣道大会　優勝

県下年間優勝旗を囲んで

谷藤 裕明

剣道六段

谷藤裕明（三代新吉 次男）

- **生年月日**
  1950（昭和25）年４月29日
- **学歴**
  厨川小～城西中～盛岡一高～早稲田大学教育学部卒業
- **職歴**
  橋市グループ役員
- **経歴**
  岩手県議会議員（1991(平成３)年～2003(平成15)年）
  岩手県議会議長（2001(平成13)年～2003(平成15)年）
  盛岡市長（2003(平成15)年９月～現在）
- **主な役職**
  東北市長会会長、岩手県市長会会長、岩手県保護司会連合会会長、中核市市長会副会長、（公財）岩手県体育協会副会長

1991年４月７日　岩手県議会議員初当選（提供：岩手日報社）

岩手県議会議長として

2003年８月24日　盛岡市長初当選（提供：岩手日報社）

3.11被災者受入れ

希望郷いわて国体にて
両陛下をお出迎え

チャグチャグ馬コ

盛岡さんさ踊り

盛岡秋まつり山車

東北六魂祭　2012年 5月26日

姉妹都市締結30周年　ビクトリアにて

盛岡・北上川ゴムボート川下り大会
2015年７月26日、第39回大会にて
完走艇数814艇、完走者数1,628名
でギネス世界記録に認定

盛岡文士劇

川守稲荷・荒神神社例大祭

昭和２年当時

昭和55年頃

平成２年、現在の地へ移転

現在（令和元年）

現在（令和元年）

神事（旭橋）

子ども神輿さんさ踊り（盛岡駅滝の広場）

花火大会

子ども神輿

花火大会

桜城小学校 金管バンド

企業対抗ビール早飲み大会

恒例の餅まき大会

例大祭の賑わいの様子

継　　踵

橋市創業150年誌の編集にあたり、振り返れば明治、大正、昭和、平成の決して平坦ではない時代を経て今があります。そして新たな令和の時代を開くに当たり、先祖代々の社主が、どのような思いで、その時々を乗り越え、企業の存続を願い、社会の変化に順応してきたのか大切な貴重な足跡でありました。企業リーダーとして、また一人の人間として、時代が変わろうとも「常により善くを目指し」新たな一歩を踏み出してまいります。

社長　谷　藤　大　樹

橋市創業　百五十年の歩み

発行｜株式会社 橋　市
岩手県盛岡市盛岡駅前北通7-17
019−624−0841

企画｜ナチュラルコム株式会社
岩手県盛岡市盛岡駅前通13-23 阿部ビル4階
019−652−9190

印刷｜トーバン印刷株式会社
岩手県盛岡市門二丁目2-3
019−653−6333